

豊田市の生活環境に対する市民意識の相関に対する研究

名城大学 学生員○山中康嗣 正 員 松本幸正

名城大学 正 員 高橋政稔 正 員 栗本 譲

1. はじめに

地域の都市基盤整備を行う場合、その計画の方向性の選択などにおいて何らかの評価基準を与える必要があるが、地域住民の意識を評価基準に取り入れることにより住民の意見を計画に反映させることが可能となると考えられる。そこで本研究においては、豊田市が現在まで実施してきた市民意識調査の結果をもとに、地域の生活環境と市民意識の相関を分析し、豊田市の住み良さの評価に対する生活環境の影響を考察する。

2. 市民の意識調査

豊田市を猿投地区、挙母地区、高橋地区、松平地区、高岡地区、上郷地区の6つの地区に分割し、市民意識調査の項目の1つである「豊田市は住み良いところだと思いますか、それとも住みにくいところだと思いますか。」という問いに対する第10回市民意識調査(平成2年実施)の地区ごとにおける評価を図1に、第11回市民意識調査(平成5年実施)の地区ごとにおける評価を図2に示す。

これらの図から豊田市を住み良いと評価する割合は松平地区、高岡地区で減少の傾向にあり、豊田市を住みにくいと評価する割合は高橋地区、高岡地区で増加の傾向にあるが、全体的には市民が豊田市に対して住み良いという印象を持っていることがわかる。

3. 住み良さの評価に対する影響要因の分析

豊田市の住み良さに対する評価に最も強く影響を及ぼしている要因を明らかにするために、外的基準を上述の「豊田市は住みよいところだと思いますか、それとも住みにくいところだと思いますか。」に対する評価「住み良い」、「ふつう」、「住みにくい」の3段階とし、表1に示した地域の生活環境に対する評価30項目を説明変数とし、数量化理論第2類を用いて分析を行った。

図3に示した市全体における数量化理論第2類の分析結果からみると、第10回市民意識調査、第11回市民意識調査ともそれぞれの項目の住み良さの評価に対する影響については大きな変化がなく、「近所とのつきあい」、「みどり・自然の豊かさ」といった項目が、豊田市の住み良さに対する評価に影響が大きいこと、逆に「役所からの知らせの受けやすさ」、「川・排水路の水のよごれ」の影響が小さいことがわかる。しかしながら、第10回調査では住み良さの評価に対する影響が小さかった「自治区・町内会の活動」、「病院・診療所への近さ」といった項目が、第11回調査では相対的に影響が大きくなっているといった場合も見られる。

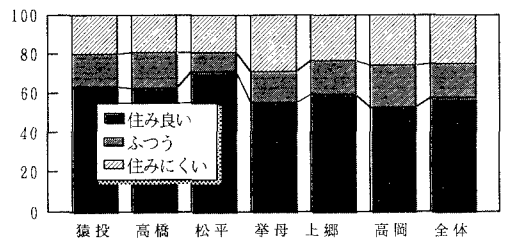


図1 地区ごとにおける豊田市の評価（第10回）

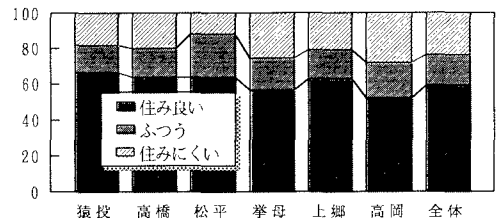


図2 地区ごとにおける豊田市の評価（第11回）

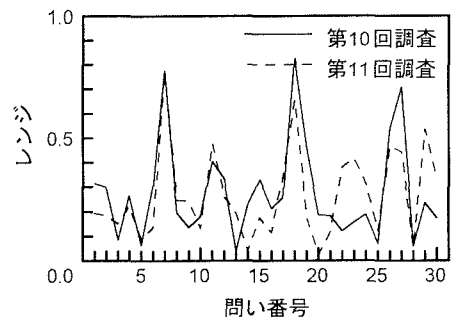


図3 市全体の分析結果

表 2 各地域ごとの分析結果（第 10 回）

順位	猿投	高橋	松平	挙母	上郷	高岡
1	18(1.0269)	7(2.1516)	7(2.5673)	26(0.7086)	1(0.9986)	27(0.7594)
2	6(0.8245)	4(1.1464)	4(1.4339)	18(0.6996)	4(0.9894)	7(0.7167)
3	26(0.7373)	1(1.0892)	23(1.2107)	27(0.6722)	12(0.7924)	18(0.5883)
4	15(0.5766)	17(1.0755)	26(1.1838)	7(0.6651)	22(0.7723)	19(0.5330)
5	27(0.5736)	15(1.0318)	2(1.1544)	12(0.6057)	21(0.7128)	21(0.5314)
相関比	0.2980	0.3159	0.5457	0.2895	0.4711	0.3428
データ数	469	243	125	1112	223	463

()内はレンジの値

表 3 各地域ごとの分析結果（第 11 回）

順位	猿投	高橋	松平	挙母	上郷	高岡
1	11(1.2621)	10(1.4616)	7(6.7782)	18(0.7328)	12(1.1623)	11(0.8200)
2	23(0.9303)	17(1.0593)	6(4.3257)	7(0.6562)	29(1.1539)	7(0.7959)
3	24(0.8096)	26(1.0213)	1(1.5077)	29(0.6019)	4(0.8487)	18(0.5785)
4	15(0.6418)	22(0.9597)	18(1.4744)	26(0.5602)	14(0.7867)	26(0.5771)
5	5(0.6393)	15(0.9574)	12(1.4469)	22(0.4812)	16(0.7688)	30(0.5670)
相関比	0.3088	0.3510	0.6718	0.3082	0.4340	0.3464
データ数	472	240	113	1117	238	430

()内はレンジの値

表 2、表 3 にはそれぞれ第 10 回、第 11 回調査における各地区別の数量化理論第 2 類の分析結果のうち、レンジの値の大きな上位 5 項目を示してある。表中の番号は表 1 に対応する番号を示してあり、かつこの数字はその項目に対するレンジの値を示してある。

これらを見ると全般的には第 10 回、第 11 回調査とも「みどり・自然の豊かさ」が住み良さの評価に対して影響が大きいことがわかり、また第 11 回調査においては「風紀・保安のよさ」といった項目が上位にみられる地域もある。次に猿投地区では第 10 回調査で「近所とのつきあい」、第 11 回調査で「風紀・保安のよさ」、高橋地区ではそれぞれ「みどり・自然の豊かさ」、「水害からの安全さ」、松平地区では両調査で「みどり・自然の豊かさ」、挙母地区では「日用品買物の便利さ」、「近所とのつき合い」、上郷地区では「日当たり・家の風通し」、「川・鉱山跡などの危険防止」、高岡地区では「電車・バスの便利さ」、「風紀・保安のよさ」が住み良さの評価に対して影響が大きいことがわかり、各地域ごとの生活環境や都市基盤の整備状況の差異が分析結果に現れていると考えられる。

特に上郷地区において、第 10 回調査では他の地域ではあまり住み良さの評価に対して影響が大きい「日当たり・家の風通し」が最も大きく影響を及ぼしていることがわかるが、これはこの地区の社宅の多さといった地域特性の現れであると思われる。また高橋地区においてのみ、第 11 回調査では「水害からの安全さ」が住み良さの評価に対して影響が大きかったが、これはこの地区が矢作川に面しているが、丘陵地が多いことなどの地域特性によるものと思われる。

4. おわりに

本研究では、地域の生活環境と豊田市の住み良さに対する評価の関係を数量化理論第 2 類を用いて分析した。この結果から地域の生活環境がどのように住み良さの評価に影響を与えているかを解明できた。今後は地域別の分析だけでなく、性別や年齢別などの分析も行い、また地域の都市基盤の整備状況と生活環境に対する意識の関係を分析していく必要があると思われる。

< 参考文献 >

豊田市：第 10 回市民意識調査報告書
 豊田市：第 11 回市民意識調査報告書

表 1 説明変数

問	問
1.	日当たり・家の風通し
2.	雨水・汚水の水はけ
3.	車の振動・騒音からの静かさ
4.	空気のごれ（におい、ほこり）
5.	川・排水路の水のごれ
6.	工場の振動・騒音からの静かさ
7.	みどり・自然の豊かさ
8.	道路（歩行のための）の安全さ
9.	水災・震災からの静かさ
10.	水害からの安全さ
11.	風紀・保安のよさ
12.	川・鉱山跡などの危険防止
13.	のら犬・のら猫
14.	し尿処理
15.	ゴミ収集
16.	ハエ・カの発生
17.	道路の改良・舗装の状態
18.	近所とのつき合い
19.	公園・広場への近さ
20.	集会などの施設
21.	子供の遊び場の状態
22.	自治会・町内会の活動
23.	病院・診療所への近さ
24.	郵便局・銀行への近さ
25.	近くの夜道の明るさ
26.	日用品買物の便利さ
27.	電車・バスの便利さ
28.	役所からの知らせのうけやすさ
29.	通園・通学の便利さ
30.	レクリエーション・スポーツの場